

## インターネット時代における法と倫理

### —サイバー犯罪とその対策—

[講演用レジュメ]

明治大学法学部・法科大学院教授

あすか協和法律事務所弁護士

夏井 高人

#### 1 はじめに

#### 2 サイバー犯罪とは？

##### A システムの信頼性や安全性に対する犯罪

- ・ 無権限アクセス
- ・ システムの円滑な運用を妨げる行為やシステムの破壊行為など
- ・ コンピュータウイルスやワーム
- ・ 通信の傍受
- ・ その他

##### B 電子データの信頼性や安全性に対する犯罪

- ・ 電子データの無権限作成や改変
- ・ 暗号化された電子データの解読
- ・ その他

##### C 電子商取引の信頼性や安全性に対する犯罪

- ・ ネットを介してなされる詐欺行為
- ・ フィッシング
- ・ スпамやポップアップ広告など
- ・ その他

##### D 違法なコンテンツ

- ・ 児童ポルノ
- ・ 他人の知的財産権を侵害するコンテンツ
- ・ その他

E その他の一般犯罪

- ・ ネット上での誹謗中傷・名誉毀損など
- ・ 麻薬などの違法物件の取引
- ・ 犯罪行為や児童買春などへの勧誘
- ・ その他

3 サイバー犯罪発生の要因

A 認証要素が少ない

- ・ 基本的には文字情報と画像情報だけ（電話によるオレオレ詐欺では音声だけ）
- ・ 相手に提供される情報（音声や画像を含む。）を偽ることができる。

B 犯人がわかり難い

- ・ 匿名性
- ・ 遠隔地からリモートでアクセス可能

C 被害者の側の問題

D 捜査機関の側の問題

E 裁判所の問題

F インターネットサービスプロバイダ（ISP）の問題

4 対策

A 国内法や各種ガイドライン等の整備

- B 国内における消費者保護行政等の拡充
- C 犯罪捜査における国際協力 — サイバー犯罪条約
- D 情報セキュリティの強化

#### 4 考えるべき視点

##### A 職業犯罪者や国際的な犯罪者集団

- ・ 倫理観を期待するのは最初から無意味
- ・ 捜査権限の拡充と厳罰主義の導入が必要

##### B 素人が犯罪者に転化する場合

- ・ 倫理教育は一応必要だが、ほぼ効果なし (なぜ普通の主婦や生徒などが店頭で万引きをするのか?)
- ・ 犯罪者になろうとする誘惑や欲望を遮断するにはどうしたらよいか?

##### C 普通の企業人が犯罪者に転化する場合

- ・ 背任や横領
- ・ 企業内での監視は万能か?
- ・ 経営トップが犯罪者に転化することは防止可能か?

#### 5 対策

##### A 法的対応 — 機能と限界

##### B 技術的対応 — 機能と限界

##### C 自主管理 — 機能と限界

#### 6 あるべき方向性

害虫駆除のために農薬を使い過ぎれば、人間のほうも耐えられなくなる。